

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	高齢者家族の利用者・家族が自営業を営んでいる利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者の受け入れ在宅生活・在宅介護の支援を行っている。利用者や家族の状態、状況変化や要望に応じての通い・泊りや利用時間も柔軟な支援を心掛けている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	4人	5人	人	1人	1人	人	4人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	できている項目を継続し不十分な地域との連携やサービスの質の向上などについても意識して業務に取り組む。	利用者への直接的な支援や介助に関しては比較的良い評価となったが、地域との連携に関しては少しずつ意識は高くなっているが、評価としては低い。また、職域によって評価にばらつきが出てしまう。	特に意見は無し。	自己評価を通しての支援の方向性をしっかり意識し、利用者への支援、地域と関りが向上するよう業務に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が来苑、相談しやすく、利用者の方が居心地のよい空間になるように環境整備に努める。	利用者の意思をなるべく阻害せず、居心地のよい環境作りには配慮できたが、安全面を考慮すると、難しい一面もあった。	施設入り口の自動ドアの開閉ボタンの位置が分かりづらい。 書類等の届け物を入れられるポストを設置してはどうか？	利用者の安全に配慮しつつ、開かれた施設になるよう環境を整備し要望を頂いた、ポストの設置等の改善を進める。
C. 事業所と地域のかかわり	在宅での生活が地域との繋がりであり、事業所も地域資源の一つという事を理解し、地域行事に参加したり、日々の支援にも繋げる。	ふれあいサロン等への参加や散歩等の日中の活動を通して地域の方との交流機会を持てた。職員の地域とのかかわりへの意識付けも進む。	特に意見は無し。	地域のイベントや日中活動を通して地域の方とのふれあいの機会を増やし、利用者・職員・施設が地域の一員であることの意識した支援を行う。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の事業所の一員として、様々な機関と連携・協力する。	事業所での利用者やその家族に対する支援や相談により、在宅生活を支えることはできたが、利用頻度が高くなると、地域との繋がりが薄れ、多機能のみの支援になりがちになる。	近所を職員と散歩する姿を時々見かける。近所の方と触れ合う機会となるので職員数に限りがあると思うが、できるだけ機会を作ってあげられると良い。 散歩中に挨拶を交わすだけでも生き生きとした表情が見られ、職員や家族以外の人と接する機会は大切だと思う。 町内のふれあいサロンに参加してもらい、ゲームなど楽しんでいただけだと思う。また、ゲーム用具の貸し出しも可能。	はじめ包括をはじめとする地域にある様々な機関や組織と連携・協力して利用者の在宅での生活を支える。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	<p>今後も運営推進会議を通して、事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。</p>	<p>事業所の現状の報告や取り組みサービス評価を行うことができ、防災等様々な助言をいただけた。</p>	<p>特に意見は無し。</p>	<p>今後とも運営推進会議を通して事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。</p>
F. 事業所の 防災・災害対策	<p>避難訓練を通して、防災意識を高めると共に、地域の介護事業所としてどのような役割ができるか検討する。</p>	<p>年に二回の避難訓練により当初よりスムーズな避難行動ができ、防災や避難行動への意識も向上した。地域の介護事業としての役割については検討に至っていない。</p>	<p>各町で防災指導員の資格取得を進めており、協力していきたい。 地震訓練はよく行われているが、この地域は水害への備えも大切で、矢作川が決壊した時には水没の可能性もある。その場合には三菱自動車の体育館への避難の提携も進めており、避難先として考えてほしい。 伊勢湾台風の時には小針地区に避難した。それ以来、大きな水害は起きおらず、水害に対する防災意識は低くなっている。 市役所配布の水害被害想定マップを参考に準備すると良い。</p>	<p>地震だけではなく地域の特性でもある水害についても防災意識を高め訓練を重ねる。</p>